

[A類家庭コース, B類家庭コース 対象]

小論文 解答例

令和7年度  
一般選抜前期  
私費外国人  
帰国生

I 以下の問いに答えよ。

問1 図は国民1人・1日当たりの供給熱量の構成の推移を、表はたんぱく質、脂質、糖質（炭水化物）の供給熱量割合の推移を示したものである。図と表から読み取れる、日本の食生活の変化と、現代の食生活を取り巻く課題を述べよ。

(採点のポイント)

昭和35年度から令和元年度にかけて、国民1人・1日当たりの供給熱量の構成やたんぱく質、脂質、糖質（炭水化物）の供給熱量割合にどのような変化があったかを適切に読み取ることができること、読み取った内容を的確に表現できること。

問2 問1を踏まえ、家庭科の食生活分野でどのような学習内容が必要か、あなたの考えを述べよ。

(採点のポイント)

家庭科の具体的な学習内容が提示できること、論理的に説明できること。

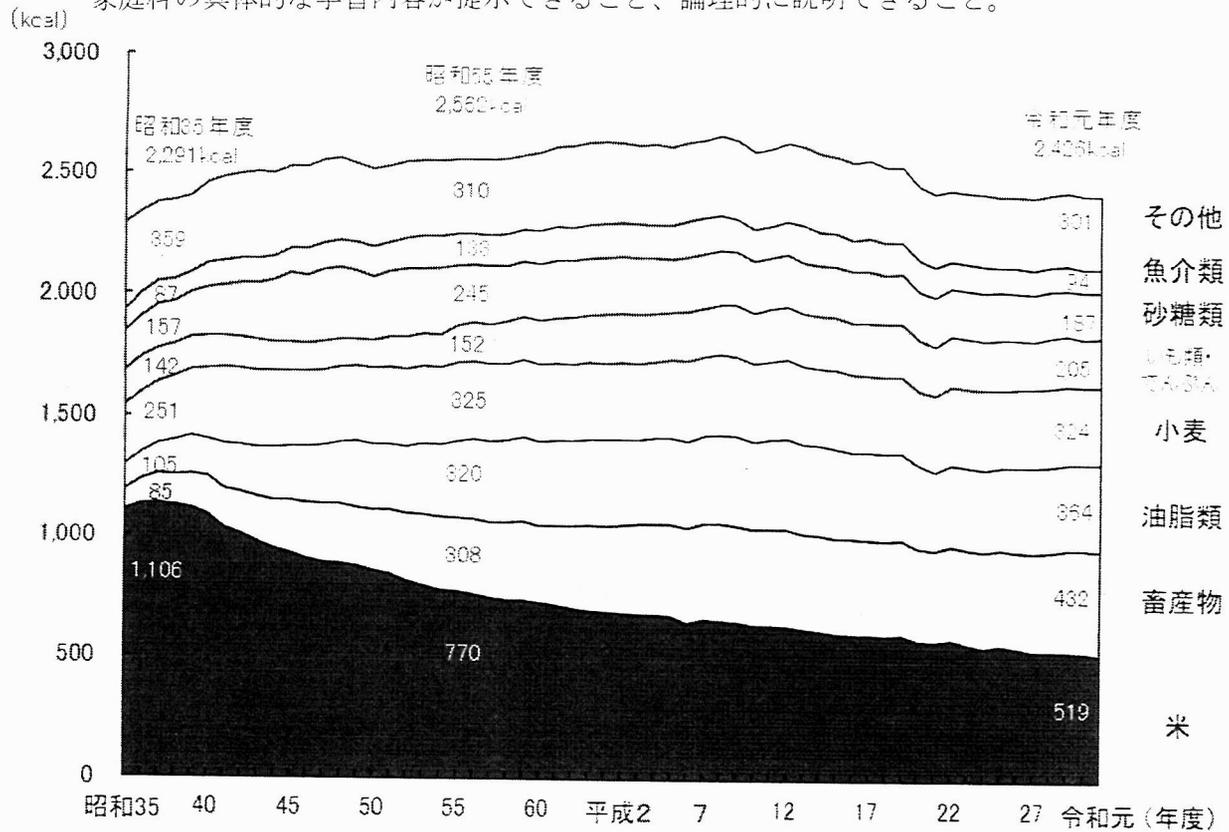


図 我が国の食生活の変化（国民1人・1日当たりの供給熱量の構成の推移）

(出典：農林水産省「令和元年度食料需給表」)

表 たんぱく質、脂質、糖質（炭水化物）の供給熱量割合（PFC熱量比率）

(単位：%)

	たんぱく質 (P)	脂質 (F)	糖質 (炭水化物) (C)
昭和35年度	13.3	10.6	76.1
昭和45年度	14.0	18.9	67.0
昭和55年度	15.0	22.6	62.4
平成2年度	15.5	25.3	59.2
平成12年度	16.0	26.5	57.5
平成22年度	14.6	26.1	59.3
令和元年度	15.0	29.0	56.0

注：昭和35年度～平成2年度は、「国民栄養の現状」、平成12年度は「国民栄養調査」、平成22年度、令和元年度は「国民健康・栄養調査」の結果を基に算出した。算出に当たっては、熱量からたんぱく質(g)×4kcal/g+脂質(g)×9kcal/gを差し引いたものを糖質(炭水化物)の成分値として比率を求めた。

[A類家庭コース, B類家庭コース 対象]

小論文 解答例

令和7年度
一般選抜前期
私費外国人
帰国生

II 日本の子どもの貧困についての次の問いに答えよ。

問1 子どもの貧困が、子どもの人生に与える影響について述べよ。

(採点のポイント)

子どもの貧困が、子どもの現在の生活だけにとどまらず、子どもの人生に与える不利益について考え、的確に述べられていること。

問2 日本では、シングルマザーの子どもの貧困率が高いことが知られている。その理由と解決策について、あなたの考えを述べよ。

注:子どもの貧困率とは、子ども(17歳以下)全体に占める、等価可処分所得の中央値の半分に満たない世帯の子どもの割合をいう。

(採点のポイント)

日本のシングルマザーの貧困率が高い理由について考え、その理由に応じるような解決策が述べられていること。